

じめじめとした梅雨の季節がやって参りました。何となく食欲が落ちやすい季節ですね。食欲不振は一方で、患者さんには季節問わずによくみられます。一体なぜなのでしょう？今回は「食欲不振」についての特集です。



食欲不振の原因

- ・もともと栄養状態が良く健康な人が一時的に病気になって食欲がなくなっているなら、原疾患の治療が順調に行けば食欲も改善します。
- ・もともと低栄養がある方、高齢者など低栄養リスクのある方は、廃用症候群が悪化しやすいので先手を打って栄養対策をしましょう。

原疾患の状態が悪い



- ・「不味い＝塩分が少なく味がしない」の事があります。食事が食べられない原因を聞くと、「味が薄くて食べられませんか？」と聞いてみましょう。塩分を付加すると食事が増えることがあります。

塩分が足りない



- ・普段健康な時は副作用なく飲めていても、体調が悪くなることで、「合わせ技一本」で副作用が出てしまうこともありますので注意が必要です。
- ・持参薬に残薬がたくさんある方は注意が必要です。処方されているが飲んでいない、ということです。看護師管理できっちり飲ませたところ、副作用が出るパターンがあります。

薬の影響



- ・低ナトリウム血症、低カリウム血症、高カルシウム血症、低マグネシウム血症などは、食欲不振や意識障害を引き起こします。

電解質異常



- ・夜間せん妄で大暴れ→セレネースを盛られる→日勤帯まで持ち越して傾眠傾向→食事が摂れないパターンがあります。
- ・認知症の進行で、その人固有の食のこだわりが強くなり、嗜好に合わない食事を提供しても摂取しないことがあります。甘いものなど嗜好に沿った付加食を検討するのも一手です。

認知症



- ・食事をすることですら疲れてしまい、一度に食べられる量が減ります。食事のかさを減らす、濃厚流動食を付けて1日かけて摂取してもらう、薬を濃厚流動食で飲んでもらうなど工夫が必要です。漢方薬が役立つときもあります。一定量のエネルギーが摂れてくると、リハビリ効果が向上し摂取量が増えてくる方がいます。

廃用症候群



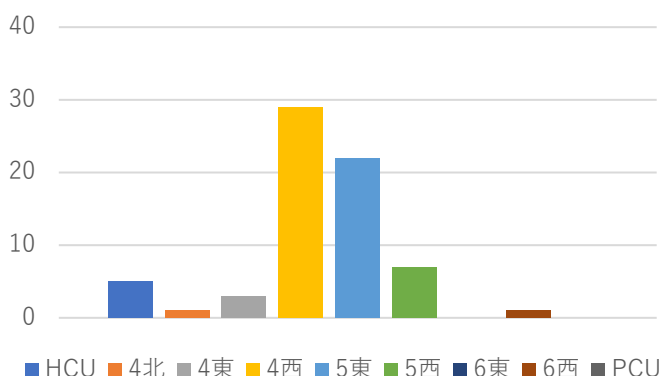
食欲不振を引き起こす原因は多種多様ですので、ケアに携わるスタッフがそれぞれの専門領域から患者さんの食欲不振の原因を探ることにより、対応可能な原因を見つけられます。ぜひ検温表の食事摂取量と、体重の推移をすべての職種が気にかけてもらえればと思います。
(みさと健和病院 NST チェアマン 内科 小野寺)



5月分の実績

	TPN (延べ人数)	EN(延べ人数)	PEG造設数	新規介入数	延べ回診者数
5月	163	166	0	29	69

5月病棟別回診数



TPN・・・中心静脈栄養（高カロリー輸液）
EN・・・経腸栄養（経鼻・胃ろう等からの経管栄養）

★NST 対象患者さんは、毎週の体重測定と SGA の入力をお願いします。

★NST 依頼を入力する際、依頼理由を備考欄にご記入ください。介入時にスムーズになります。（例：低 Alb/褥瘡/周術期/EN/PN etc.）

文責：NST 専従 管理栄養士 谷岡 恵